

式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

教職員一同心から歓迎いたします。これまでお子様を温かく見守り、支援してこられた保護者の皆様には、心からお祝い申し上げます。

本日の第五十七回入学式に愛国学園理事長の織田奈美先生をはじめ、系列上級学校のご来賓の先生方のご臨席を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

本来ならば、在校生や多くの来賓の方々と共に入学生を歓迎するところですが、コロナ感染対策のため、簡略化した形で式を行うことになったのはとても残念です。みなさんを直接歓迎することができなかった在校生とは、後日対面式がありますのでその時を楽しみにしててください。

さて、今日から本校で新たなスタートを始める皆さんは、校訓の「親切正直」とともに、建学精神の「豊かな知識と技術を身につけ、美しい情操と他者を思いやる奉仕心を持って、賢くしとやかな女性を目指す」こととなります。

高校での教育は、その人の基礎となる「根っこ」

を育てることにあると私は思っています。現在の皆さんはまだ短い幹で、細い枝と数えるばかりの小さな葉っぱしかつけていない若木です。その若木が大きな空に向かって枝を伸ばしていくためには、土の中にしっかりと丈夫な根っこを張らなければなりません。

皆さんの役割は、世界にひとつだけの「自分という種の木」を育てていくことです。皆さん一人一人には、その役割を果たす最高責任者としての強い自覚が必要になります。

しかし、皆さんが「自分という種の木」をのびのびと成長させるためには、十分な栄養を蓄えた土壌が必要になります。その豊かな土壌を整えることが本校の重要な役割になります。

その豊かな土壌とは、教育課程であり、教育環境になります。本校では、一年次の共通履修課程終了後、「保育福祉コース」と「進学教養コース」に別れて二年間それぞれのコースで学びます。そこでの学びを通して、「なりたい自分探し」から「なりたい自分になる決意」をもって進んでいくことになり

ます。つまり、コースの学びで皆さんの未来を創っていくのです。

各コースでは、それぞれの特色を最大限に生かして、知識や技術を習得し、多様な進路選択に対応できる教育課程を整えています。

教育環境の面では、豊かな自然環境に恵まれているばかりでなく、愛国学園の大きな魅力としては、系列の上級学校があることです。大学、短期大学、保育専門学校との連携協力が充実しており、高校在学中に実習や研修などを受けながら将来の進路選択ができる最適な教育環境にあります。

このように皆さんの「自分という種の木」を成長させる条件は整っています。どのような木に皆さんが育っていくのかとても楽しみです。

今日からの三年間の歩みが皆さんの未来を創っていくしつかりとした歩みになることを心から願って校長式辞とします。

令和三年四月十一日

愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校長

倉持正男